

令和6年9月 川口市議会定例会

市長の所信と報告

川 口 市

本日、9月市議会定例会を招集いたしましたところ、議員の皆様には、公私にわたり大変ご多用の中、ご健勝にてご参集を賜り、厚く御礼を申し上げます。

提案理由の説明に先立ちまして、お許しをいただき、所信と市政に関する報告を申し述べたいと存じます。

先月8日に日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生したことを受け、気象庁は南海トラフ地震臨時情報の巨大地震注意を初めて発表いたしました。その対象地域は、沖縄・九州地方から関東地方までの広範囲にわたり、川口市は対象から外れるものの、南海トラフ地震が発生した場合、最大震度5弱から5強程度の大きな揺れが推計され、市内の一部にも被害が想定されるところであります。

このため、私は、巨大地震注意発表後、直ちに情報収集体制を整えるよう担当部局に指示するとともに、市ホームページやSNS等を活用し、市民や企業等の皆さんに地震への備えの再確認について周知を図って参りました。

幸いにも、地震活動など特段の変化が観測されなかったことから、気象庁は15日をもって巨大地震注意を解除しましたが、今後、大規模地震が発生しないということではなく、いつでも起こりうる可能性があることを前提に、皆さんには、今一度、災害についての知識を高め、これに対処する備えをしていただくよう呼びかけて参ります。

また、川口市においては、毎年、大規模地震の発生に備え、川口市総合防災訓練を実施し、防災機能の向上を図っているところであり、10月に実施予定の住民訓練では、改定した川口市地域防災計画のもと、発災後の避難所開設から一部避難者の受け入れや炊き出し訓練のほか、簡易トイレやダンボールベッドなど

の防災資機材の組み立てや使い方を体験してもらうなど、より実践的な訓練とし、いざというときに地域住民同士が速やかに連携を図り対応できるよう、自主防災力の強化と防災意識の啓発を図って参ります。

私は、これまで、すべての小中学校施設の耐震化をはじめ、計画的にマンホールトイレや防災公園などの整備、実災害を踏まえた指定緊急避難場所の見直しやわかりやすいハザードマップの配布のほか、食料・飲料水や簡易トイレなどの生活必需品の備蓄、他の自治体・企業・関係団体との応援協定の締結、さらには東消防署の設置により3署体制とすることで、災害への即応能力の強化や、リアルタイムな情報共有により迅速で効果的な消防活動を可能とする新たな消防指令システムを導入することで、人命の安全確保と被害の軽減を担う消防力の向上を図るなど、災害に強いまちづくりを目指し、防災機能の強化に努めて参りました。

他方で、大規模災害時には、行政や関連企業等の対応だけでは限界があり、いざという時こそ、自分や家族の命は自分たちで守る「自助」や近隣住民・地域で助け合う「共助」の取り組みが重要な役割を担うことから、日頃から顔の見える関係づくりや地域の防災訓練などの支援を行っているところであります。

今後も引き続き、いつ起こるかかわからない災害に対し、市民等の皆さんには、家具の転倒防止、食料・飲料水などの備蓄、避難場所の再確認、地域での防災活動への参加などについて周知を図るとともに、本市の防災機能をさらに向上させ、災害に強い安全・安心なまちづくりの推進に努めて参ります。

それでは、市政に関しまして、数点ご報告を申し上げます。

第1点は、新庁舎2期棟建設工事の進捗状況についてであります。

新庁舎2期棟の建設工事については、着手してから約1年6カ月が経過し、現在、建物の全体像が現れ、完成に向けて順調に工事が進んでいるところであります。

この2期棟は、第一本庁舎同様、災害に強い庁舎とするため、免震構造を採用するほか、緊急汚水貯留槽の整備、さらには供給安定性に優れた都市ガスを使用したコージェネレーションシステムを導入し、非常時の電力の確保と第一本庁舎への電力供給を可能とするなど、ライフラインの遮断時においても災害対策本部としての機能維持や業務の継続を可能とし、安全・安心な暮らしを支える防災拠点としての役割を果たして参ります。

また、これまで市内に分散していた部署を集約し、市民の皆さんの利用頻度の高い窓口部門を2階から4階に配置し、効率よく各種手続きができる動線や各フロアへの案内の設置、デジタル技術を活用した「書かない窓口」の導入などにより住民サービスの向上や業務の効率化を図るほか、来庁者用の託児室や授乳室をはじめ、多機能トイレの整備、郵便局やカフェを設置するなど、誰もが利用しやすい庁舎とするものであります。

加えて、シンボルである明るく開放的なシビック・キューポラが各フロアを繋ぐアプローチとして心地よい空間を創出し、さらに立体駐車場から2期棟、そして第一本庁舎とを連絡通路で結び、来庁者が目的の場所へアクセスできるよう安全性と利便性の向上を図って参ります。

私は、この2期棟の完成により、ひな壇テラスに豊かな緑を植栽した向かい合う2つの棟が新たな川口の顔として、市民の皆さんに末永く親しまれる庁舎とな

るよう、3大プロジェクト最後のこの事業を令和7年6月の建物完成に向け、しっかりと進めて参ります。

第2点は、「夜のいきもの観察会」についてであります。

私は、自然や生きものと触れ合う経験や体験などが、子どもたちの豊かな人格形成の一助となると考え、これまで水辺と雑木林を備えた生物多様性の拠点となるイイナパーク川口やグリーンセンターなどを整備し、積極的に自然保護対策の推進や環境学習の場を設けているところであります。

このように整備したイイナパーク川口やグリーンセンターを活用し、一昨年から「夜のいきもの観察会」を開催したところ、応募者多数のため抽選となっていることから、今年度は、見沼自然の家を新たな会場に加え、開催数も増やしましたが、親子220組の募集に対し、昨年よりも多い790組の応募となり、夏休みの大人気のイベントとなっております。

この観察会に私も参加いたしました。カブトムシやクワガタなど想定をはるかに超える数の昆虫等を観察でき、これまで取り組んできた生物多様性の環境整備に手応えを感じたとともに、小さな生きものを見つけるたびに子どもたちが歓声をあげ触れ合う光景に、子どもの頃から生きものと親しむことの大切さを改めて痛感したところであります。

今後も、生きものの生息地や繁殖地となる緑地や水辺、雑木林などの保全や生物多様性の拠点となる環境整備に努めながら、来年度の「夜のいきもの観察会」についてはさらに多くの親子が参加できるよう企画の充実を図って参ります。

第3点は、川口市市産品フェア2024についてであります。

川口市を代表するイベントに定着した市産品フェアも今年で記念すべき10回目を迎え、来月25日から3日間、昨年と同様にオートレース場を会場とし、現在、開催に向けて鋭意準備を進めているところであります。

この間を振り返りますと私が市長に就任した当時、川口市内には優れた技術や素晴らしい製品があるにも関わらず、あまり知られていない現状を重く受け止め、この状況を打破するには、市内外の企業や市民、近隣自治体などに広く知っていただき、使っていただき、広げることが必要不可欠と考え、市産品フェアを開催いたしました。初開催では、83社・団体であった出展者数が昨年は倍近くの約150社・団体の出展者数に拡大し、フェア期間中に2万人を超える方にご来場いただき、商談件数も3,069件と過去最高を記録したところであります。

私は、市産品フェアを継続的に開催したことにより、出展者からは、出展者同士の異業種交流が生まれ、その相乗効果として多くの商談に繋がり売上が増えた、メディアに取り上げられたなどの喜びの声も多くいただいております、川口市の優れた技術や製品が市内外へしっかりとPRでき、販路拡大に繋がっているものと確信しているところであります。

今年は、より一層の販路拡大に向けて、出展企業が自社の製品などをPRできる特設プロモーションスペースの設置をはじめ、商談促進への取り組みとして、市内外の建設・設計事務所などに積極的に誘致活動を行うほか、記念講演会や匠の技術を結集したコマを持ち寄り競い合う全日本製造業コマ大戦を5年ぶりに開催するなど、さらなる市内中小企業の売り上げの向上や販路拡大に繋がるフェアとなるよう全力で取り組んで参る所存であります。

さて、今回提案いたしました議案は、予算議案5件、条例等の一般議案40件

であります。

予算議案につきましては、一般会計において、川口市パスポートセンターの西川口駅前分室移転等に伴う改修費などに係る6億8,869万9千円の補正を、特別会計では、国民健康保険事業特別会計をはじめ3会計において、6,059万3千円の補正を、また、企業会計では、水道事業会計において、2億500万9千円の減額補正を、それぞれお願いするものであります。

次に、一般議案であります。 「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例」 など、条例議案5件、契約議案6件、財産の取得議案2件、訴えの提起議案10件、和解議案1件、広域連合規約の変更議案1件、市道路線の認定議案5件、市道路線の廃止議案1件、決算認定議案4件、人事議案5件であります。

それぞれの議案内容につきましては、この後、副市長から説明を申し上げますので、慎重にご審議を賜り、ご可決下さいますようお願いを申し上げます次第であります。